

今月の聖句

『あなたを照らす光は昇り
 主の栄光はあなたの上に輝く。』
 (イザヤ書 第60章1節)

- ◎1月の予定
- 7日(月) 教務委員会・教職員協議会
- 8日(火) 3学期始業礼拝
- 9日(水) 給食開始
- 9日(水)・10日(木) 入学願書受付(小)
- 10日(木) 校内研修会
- 15日(火)・17日(木) 体験学習②(中)
- 16日(水)・17日(木) 入学願書受付(中)
- 17日(木) 教務委員会
- 18日(金) 自宅学習日(小)
- 18日(金)・19日(土) 小学校入学考査②
- 23日(水)・25日(金) 転入体験学習③(小・中)
- 24日(木) 教職員協議会
- 30日(水) マラソン大会
- 31日(木) マラソン大会予備日
- ◎2月の予定
- 1日(金) 自宅学習日(中)
- 1日(金)・2日(土) 中学校入学考査
- 5日(火) 授業参観・保護者会
- 7日(木) 校内研修会
- 8日(金) スケート教室

「クリスマス礼拝」 12月13日(木)

平塚聖マリヤ教会の島田司祭の司式により行われました。聖歌を賛美し、主イエス様のこ
 降誕を喜び、お祈りをおささげいたしました。



子どもたちの祝会・クリスマス祝会

12月14(金)・15日(土)

小学校 オリジナル劇
 『ママちやまー澤田美喜物語』



中学校 聖劇
 『イエス様のお誕生』



あけましておめでとうございます

昨年は、本学園の教育活動にご支援ご協力を
 いただき、ありがとうございました。

いよいよ3学期、まとめ準備の期間です。
 子ども達が新年の良いスタートを切るとも
 に、卒業や進級に向けて意識を持って生活して
 いくよう、しっかりと指導していきたいと思
 います。

本年もどうぞよろしく願っています。

☆マラソン大会 30日(水)

大磯運動公園にて行われ、午前9時50分頃
 に最初に中学生(34km)がスタートし、小学
 生は小5・6(22km)、小3・4(17km)、
 小1・2(12km)と順に時間差でスタートし
 ていきます。自分が持つ力を最大限に発揮でき
 るように、体育の授業ではいろいろな走り方を
 したり、持久的な運動を取り入れたりと、本番
 に向けて練習します。持久走は負けない気持ち
 が大切です。そのためには、体調を整え、どの
 子も意欲的に当日を迎えられるように前向き
 に練習して欲しいです。練習にも水筒・防寒着
 やタオル等の用意を忘れずをお願いします。

当日、大磯運動公園は一般の方も利用されて
 います。コース内に入らないなど、大会がスム
 ーズに進められるようご協力をお願いします。
 詳細につきましては、「マラソン大会のお知らせ」
 や学級通信等を「ご覧ください」。



平成三十一年に思う

学園長 小川 正夫

聖ステパノ学園を大切に思ってください、暖かいご支援を寄せて下さる多くの方々と共に平和な新年を迎えることが出来ますことを心より有難く幸せなことに感謝しております。新年が皆様にとりまして、より良い一年でありますようにお祈り申し上げます。

第二次世界大戦に参戦、敗戦、復興、新しい時代を迎え成長を目指してきた昭和の時代から、平和を願う平成の時代を迎えましたが、大きな自然災害に幾度も見舞われ、尊い命が失われ、今も困難な状況に置かれている方々が、大勢おられる現実には深く心が痛みます。

三十一年目を迎えた平成の時代ですが、今年五月から迎える新しい時代の元号が四月に予告されると総理の年頭の所感にありました。聖ステパノ学園も、学園創立五十周年に始められた総合発展計画の中の環境整備も三月末には概ね達成し、四月からは新しい環境に生活する時代が始まります。

聖ステパノ学園は、嘗ては、児童養護施設エリザベス・サンダース・ホームの働きの一部として、施設に生活している子ども達の為の教育施設でありましたが、二十数年前から、広く一般の家庭からの入学希望者も受け入れ、多様な教育的必要性に対応できる多様な教育力を目指す私立の学校を目指してきました。

今日では名実ともに、学校法人聖ステパノ学園は、神奈川県私学協会加盟校、キリスト

教学校教育同盟加盟校、日本聖公会関係学校の一員として、特色ある学校として高く評価されています。

学園創立者澤田美喜先生が児童養護施設を設立、殊に子ども達に対する教育の必要性に使命感を覚えたのは三十一歳、当時エリート外交官であった夫君の澤田廉三氏と共に英国ロンドンに駐在していた一九三一年の秋、ロンドン郊外コウズウェイ・ステイプニーにある民間の児童養護施設ドクター・バーナードス・ホームを訪ねた時に始まります。

バーナードス・ホームの創立者トマス・ジョン・バーナードは一八六六年に児童養護施設を設立、教育の必要性を痛感し、翌年一八六七年には質素ではありましたが子ども達の為に小さな学校を設立し、貧しい環境にある子ども達にも、等しく教育を受ける機会を提供しています。いわば社会福祉と教育実践の先駆けとして世界から注目されました。

福祉、教育、看護、医療はキリスト教の愛の働きであるという精神の実践でした。

一五三年前に始められたドクター・バーナードス・ホームの働きは一九七〇年代には閉鎖し、施設、建物を提供する養護、福祉のあり方を大きく変え、「バーナードス」という名称で、その後の働きは、児童福祉教育の専門的な支援活動への助言、指導者の教育養成機関となつていますが、願う理念の本質は変わってはおりません。

様々な事情で家庭から引き離された子ども

達の成長に何が必要かを考える場から、次第に様々な障害を持った子ども達や情緒の面、行動の面で適応に問題を抱えている子ども達に対応して関わる事業へと変化していきましたが、一貫している目標は、様々な状況におかれて心が傷ついたり、自分の居場所を失っていたりしている子ども達も、自分の生活を変え、努力して自分の将来を充実したものに变えていく手助けをすること。人として生きる権利を擁護することでした。

二十年前、研修を兼ね、私が「バーナードス」を訪ねた時にも、標語に「子ども達の将来を取り戻してあげよう」とありました。

否定的に自分を生きたり、大人に対する不信感を持ち続けたりせずに、一人ひとりに建設的な将来を取り戻してあげよう、自分の将来をつかみ取る努力をさせる支援をしていこうということでした。

近年、一括りに障害児という言葉聞くことがよくありますが、間違つてはいけないのは、障害児という人格はありません。子ども達の一人ひとりが、適応場面で様々な問題を抱えているからと言って、それを人格とみたり、この程度の能力の子だから、この程度でよいとか、やらなくてもよいという考えは間違いです。聖ステパノ学園に生活する子ども達は様々な場面でチャレンジ精神を生かしています。「そのままでもいいなんて言わないで」という声が聞こえます。私達はその声に応えなくてはなりません。

本当に大切なこと

教諭 長谷川 誠子

2016年の4月に小学校の新校舎が完成し、子どもたちはとても良い環境の中で充実した学校生活を送っています。

また、とても嬉しいことに昨年の9月より新しい体育館、図書室、職員室などの建築も始まりました。広くなる体育館では、子どもたちが伸び伸びと運動をしたり、全校での集まりも、余裕を持って活動が出来るようになります。子どもたちの学びの環境が整えられている状況に感謝の気持ちでいっぱいです。

体育館の建築の現場では、多くの職人さんが働いています。社会科の時間に子どもたちと作業の様子を見学したことがあります。

その時は、基礎を作っているところで、コンクリートミキサー車でコンクリートを入れていました。流された大量のコンクリートを多くの職人さんが並んで均していました。平らに均していく様子は本当に見事で思わず見入ってしまいました。多くの方々の熟練された働きにより、建築は徐々に進んできました。毎日、建てあげられていく様子を見るのが本当に楽しみです。

子どもたちの中にも工事の様子が気になり、時折、時間を忘れて見ている子がいました。日々変わっていく様子が目が離せないという感じだったのではないかと思います。

現在、このような恵まれた環境の中にある本学園は、キリスト教主義の教育が行われています。毎朝全校で礼拝が行われ、週1時間、聖書の授業が行われています。

教員も2か月に1度くらいの頻度で、放課後に聖書教室という時間をもっています。聖書の教員による聖書についての学びを中心に行っています。

毎回、いろいろなことを学ばれますが、昨年9月に行われた聖書教室で見せて頂いた「ふたりの贖罪」というDVDは、強く心に残りました。太平洋戦争で戦ったアメリカ兵と日本兵の話でした。

戦時中はお互い敵を憎みながら、自分たちが何をしているのかも分からずに、ただ私たちの勝利のためにあらゆることを行っていました。しかし、苦しみと憎しみの中で、偶然にも手にした聖書との出会いにより、人生が大きく変えられました。二人共、宣教師となり、憎しみを越えて、アメリカ兵は日本人たちのために、そして、日本兵はアメリカの人たちのために、お互いの国を巡り伝道しました。

人間的な思いではどうすることもできなかったことが、聖書の言葉（父よ、彼らを赦して下さい。彼らは何をしているのか分からないので。ルカ23章34節）との出会いにより、神を信じ、二人の人生は180度変えられたのです。この聖書との出会いと二人の生き様に強く心を打たれました。

奇しくも、ステパノ学園の創立者である澤田美喜先生も、12歳の時の聖書との出会いがその後の大きな働きへと繋がっていったのです。ステパノ学園の子どもたちも毎朝礼拝し、聖書の御言葉に触れて生活をしていますので、これから先の人生において、今、触れている聖書の御言葉が、子どもたちの道を照らすものとなり、力となってほしいと思いました。

また、「無知は無理解を生み、無理解が憎悪を生む。そして、憎悪が戦争を生む。」と語られていた部分がありましたが、現在も世界中で起きている多くの悲劇的なことは、このことが関係しているのだと思われました。

私たちの身近なところで起きる問題も、無知ゆえの無理解が原因というものもあるように思います。相手のことを知ろうとする思いを持たず、知ったつもりになり、自分の思いや考えだけで進んでしまっている時には、相手の事をよく理解することはできません。

たくさんの人たちと関わる私たちは、自分の考えや思いで決めつけずに、もっと多くの側面から相手のことを知る努力をし、しっかりと理解していくということを中心に必要を聖書教室から学ばせていただきました。

子どもたちと一緒に、これからも礼拝を守り、聖書の御言葉に触れて学校生活を送っていききたいと思います。

駅伝大会に向けて

教諭 二椏木 健太

1月になると、元日にニューイヤ―駅伝が開催され、2・3日には大磯も区間になっている箱根駅伝があります。本格的な駅伝シーズンが真つ最中のなか、我が陸上競技部の児童生徒も大磯町の駅伝に参加するために日々練習に取り組んでいます。昨年、中学生は第

3中継所で繰り上げスタートとなり、たすきを繋げず、小学生は数秒差で優勝を逃し、どちらも悔しい思いをしました。今年こそ中学生はたすきをゴールまで繋ぎ、小学生は優勝することが目標です。今年度から小学校5・6年生も正式な部員として入部し、中学生に混じって、大会に向け、一生懸命練習していきます。

そんな中で今年の冬のテーマとして掲げていることが2つあります。1つ目は体力の向上です。例年よりも走り込みの距離や時間を増やし、基礎的な体力づくりを励むことです。最初はウォーミングアップだけでも大変そうでしたが、少しずつ体力がついてきました。2つ目は陸上部の中で競争心を持つことをテーマにしています。昨年度と比べ、部員数が倍近くに増え、普段は先輩、後輩の垣根を越えて仲良しな所もステパノでは良い所ですが、陸上の時にはライバルとして、お互いに競争相手として練習から刺激し合いながら一人ひ

とりがより高いレベルを目指し、取り組んでほしいと思っています。今までは自分のペースでそれぞれが自分のベストタイムを更新しようとして走っていました。確かに自分のベストタイムを更新することは大切ですが、普段の練習や大会で自分の少し前を走っている人を抜かそう、勝ちたいという気持ちをより強く持つてもらいたいと思います、このテーマにしました。

このテーマを掲げ、練習を続けていたある日のことです。毎回、練習や大会が終わるとその日の記録や感想を日誌にまとめる、通称陸上部ノートを一人ひとりが持っています。その陸上部ノートにある生徒がこんなことを書いていました。

「絶対に抜かしたい人を抜かせなかった。」その一言に私はとても驚きました。その生徒はクラスや部活動でも大人しく、口数も少ない子ですが、心の中ではこんなにも強い気持ちを持って練習に取り組んでいたとは思いませんでした。また、ある日はこんなことを書いていました。

「今日も絶対に抜かしたい人を抜かせなかった。だけど前よりも秒差が縮まっていた。」一日だけでは目標としていたところまでは届かなかったけれど、一回一回の練習で自分なりに手応えを感じ、取り組んでいます。そういった気持ちの変化が練習での取り組む姿勢を変え、それがいずれ結果につながっていきます。また、ある児童は

「最初は〇〇くんについていく自信はなかったけど、今日、同じタイムで自信になった」と書いていました。中学生に混じって、きつい練習でも一日一日の練習で歯を食いしばって頑張ってきた成果が少しずつ出てきて、それが年上の人と同じタイムになったことが自信に繋がったと思います。練習の中で得た手応えや自信がレースになった時にここぞという場面に生きてくると思います。

陸上に限らず、日々さまざまなことに取り組んでいても、すぐに結果が出ることはありません。時にはどんなに頑張っても良い結果に結びつかないこともあります。しかし、一日一日の積み重ね、一回一回の練習の積み重ねがあつてこそより良い結果に繋がると思います。また、結果が全てというわけではなく、そこに行き着くまでにどれだけ自分自身で高い目標を持ち、自分を高めていけるかが一人ひとりの成長に大事になってくると思います。今年も絶対的なエースはいませんが、全員が日々の練習で取り組んできたことをすべて出し切つて、聖ステパノ学園陸上競技部のたすきをゴールまでつなげていけることを信じています。



衣装製作

非常勤講師 飯田 裕美

私は、ステパノ学園の行事が大好きです。授業とは違う子どもたちの表情、素直な思いを表現する姿や懸命な様子などを見る機会でもあり、また、子どもたちと長い時間を共に過ごす貴重な日々でもあります。一つのことをみながら作り上げようとする思いの中、特別な空気に包まれる学校の雰囲気も本当に大好きです。

そんな大好きな行事の一つでもあり、私の人生の転機ともなった「祝会」に、昨年度に続き、中学校の衣装係を担当させて頂きました。

振り返ると、祝会で衣装を作らせて頂くようになったきっかけは、ある先生の、「婦人警察官(現在では女性警察官)の衣装、作れませんか？」の一言でした。

今でこそ衣装を作ることが大好きな私ですが、お恥ずかしい話、中学高校時代はミシンが大の苦手でした。ミシンの糸のかけ方がよく分からず、動かせばすぐに嫌な音を立てては止まる、縫い跡はぐちゃぐちゃ。しかも出来る上がるもの全て、なぜか男性サイズになつてしまう…という、何をやっても失敗しかない被服実習全般がとにかく大嫌いでした。

そんな私がやっつこと自分で自分サイズのスカートが作れるようになったのは、大学生になってからのことです。大学卒業から数年。

まだまだ初心者な私が、いきなり婦人警察官の衣装はハードルが高すぎます。ですが、家庭科教員が衣装一つも「作れません」とは到底言えず、「…やります。」と、それはそれは小さな声で答えた気がします。

その当時はインターネットが普及しておらず、詳細な資料を手に入れることが困難でした。とりあえず図書館に行つて参考になりそうな資料を借りてきましたが、情報は乏しいものでした。しかも、衣装を一から作るには私にはハードルが高すぎる…、頭をひねりにひねつた結果、私のリクルートスーツ一式にネクタイをつけ、フェルトの緑の腕章を腕に巻けば良いのではと考えました。しかし、これだけでは婦人警察官には程遠い。やはりポイントである帽子は作らないといけないと思ひ、私物の帽子をよく観察し、厚紙や布を使って試作と失敗を重ねました。そんな苦労してできあがった帽子は、驚くことにそれに近いものができ上つたのです。

そして、その衣装を着て、生徒が舞台上演技をする姿に大きな感動を覚えたのを今でも鮮明に覚えています。

この成功体験を機に私も自信がつき、翌年以降も衣装に関わらせて頂くようになりました。

聖劇の衣装は勿論、ある年は生徒がデザインした衣装を、またある年は恐れ多くもキヤッツを真似た衣装を、そして時にはセーラームーン、勇者、魔王、女王…。振り返れば色々

な衣装を作らせて頂きました。

ここ数年はリメイクにこだわり、古着屋さんで購入した洋服や、今まで作ってきた衣装に、副資材などの装飾を施すことを楽しみとしています。

そして衣装は役者を輝かすための道具の一つですが、同時にヘアメイクも役者の更なる魅力を引き出すためのものです。祝会約一週間前から休み時間等を使って、衣装係の生徒と役者さんにヘアアレンジを行い、似合いそうなメイクを相談し、試行錯誤しながら施していきます。祝会の二日間に至っては、衣装係は毎年六時半には学校に来て、スタンバイしてくれています。衣装係は、同じ思いを最も身近な所で分かち合う大切なパートナーです。素晴らしい技術を持って今年も頑張ってくれたこと本当に感謝しています。

祝会は、私にとって大きな人生の転機となった行事です。婦人警察官の衣装を作るきっかけを与えて下さり、私の大きな自信へと繋げて下さった先生、納得できるまで諦めず、励まし、共感し、私の一層のやる気を起こして下さる先生、笑顔で支え、常に協力体制でいて下さった先生、「より良いものを」と言つて陰ながら支えてくれていた先生、そしてステパノっ子たちに支えられて今の私があります。多くの人々に支えられ、自信を得られたこと、本当に感謝しています。これからも精進し、より良いものを作れるように今後も努力し続けて行きたいと思ひます。

「小学校」十二月十五日に、海に見えるホールで、クリスマス祝会がありました。小学校は、創立65周年を記念して澤田美喜先生の生涯を劇にしました。

さわだみきものがたり

小一 G・T

クリスマスしゆくかいで、かぜのせいをして五かいしゆつえんしてよかったです。さわだみき先生は、どんなくなるしみて、くろうをして学校をつくったのでしよう。すごいです。たいへいようせんそうで、くるしみでいっぱいいな子どものために学校をつくってすごい人です。さわだみき先生はせかい一すごい人です。

小二 R・H

今日、学校でクリスマスしゆく会がありました。ママちやまのげきをしました。わたしは、子どもやくでした。みやざき先生が、「百点。」と言ってくれました。うれしかったです。来年、三年生になったら、じどうをやりたいです。

お母さんとお父さんが来てくれて、よかったです。すつごくかんどうしました。

小三 Y・Y

きのう、クリスマスしゆく会にでました。のんちゃんに



も見てもらいたかったのに、人数が二人しか入れなかったせいで、のんちゃんが入れなくてざんねんだったです。昼ごはんは、カレーやさんで食べました。がんばったからおいしくかんじました。



小四 K・K

今日は、待ちに待っていたクリスマス祝会の日でした。やるまえに、きんちようして心ぞうがバクバク！でも、自分にとって、自分の実力を出しきって、やったと、ぼく自身は思います。帰り、車で母が「よくできていたね！」とほめてくれました。うれしかったです。今日のぼくの反省点は、校歌をよくおぼえていなくて、小さい声で歌っていた事です。来年のクリスマス祝会もがんばるぞ！

緊張したクリスマス祝会

小五 A・S

今年の劇は、『澤田美喜物語』でした。僕は、ナレーターを希望しました。役発表で希望通りだったので、嬉しかったです。ちなみに、役はナレーター⑨です。

教室での練習は、僕は五年教室で行いました。動きや場所を覚えるのは大変でしたが、だんだん覚えてきて、ホールでの練習になりました。校歌は長くて、覚えるのが大変でした。でも毎日の練習で、だんだん覚ええました。木曜日の練習ではもう校歌やセリフ、動きや

場所などを覚えていました。しかし、聖劇の最後に歌う『あらのはてに』の歌詞を覚えていなかったのですが、土曜日の朝に覚ええました。



そして本番になりました。毎日練習を積み重ねていった成果を出す時です。大勢のお客様の前でも緊張しました。楽しく劇ができて、そしてお客様に楽しんでもらえてよかったです。

平成最後のクリスマス祝会

小六 E・M

クリスマス祝会をやりました。小学生は、「ママちやま・澤田美喜物語」を演じました。私は、ママちやま1の役でした。主役だったので、セリフはけっこう長かったです。でもちゃんと覚えて言えました。人がたくさんいて緊張したけど、劇が成功して良かったです。

平成最後・小学生最後のクリスマス祝会だったので、とってもいい思い出になりました。成功した所は、聞きやすくて、大きな声を出して演じる事ができた所です。

失敗した所は、もうちよっと動きを良くしたかったです。

皆がちゃんと上手にできて、私も上手に言えて、劇が成功できてとっても楽しかったです。



「中学校」今年も聖劇の担当でした。役者だけでなく、聖歌隊、大道具、照明、衣装に分かれて皆で一つの劇を作り上げました。

「うれしかった一日」

中一 N・T

先週の土曜日に中学校のみんなで聖劇をやりました。

中学校が上がって初めての聖劇でも緊張しました。

今年はホールがいっぱいになるぐらい(約200人)のお客様が来てくれたので、うれしかったです。

今年、私は聖歌隊という役で頑張りました。

聖歌隊は場面が変わる時に聖歌を歌って、来てくれたお客様に聞かせるという大事な役割です。なので、私は聖歌隊に選ばれた時は大丈夫かなと、とても心配でした。ですが、練習するしかないと思います、がんばってやりました。そして本番の日がやってきました。本番はホールで歌うので、とても緊張しました。



最後のみんなの歌う曲ではアルトを歌いましたが、最後ちよっとだけミスしてしまい残念でした。でも、残りの曲は間違えずに歌えたのでうれしかったです。

来年はオリジナル劇で

どうい劇になるかわかりませんが、どんな役になっても頑張りたいです。

中一 S・A



今日はクリスマス祝会がありました。大道具なので緊張することはないですが、ドキドキしました。また星を消すところを間違えてしまいました。また、ぱつと見、大きな問題はなかったのが良かったです。

そして大きな問題もなく、無事幕が閉じて聖劇が終わりましたが、不思議なことに少しさびしいような気分になりました。

再来年は聖劇ではないですが、再来年は聖劇をやるので、次は役者などもやってみようかなと思います。



中二 G・N

今日はクリスマス祝会でした。僕は最初の「どんな方なのですか」の所を、かまわずに言えたなと思います。

お母さん、お父さんがとても良かったと言っていました。去年のぼくの役と感じが違っていただけの子のお母さんにも言ってもらいました。

皆、本当に今日はお疲れさまでした。



中三 Y・A

劇の本番、クリスマス祝会がありました。始まる前、見にこられたお客様が「200人くらいだ」と聞き、びっくりしました。本番開始で幕が開いたら、本当に多くのお客様がいました。僕は「あーこれは泣いても笑っても最後の劇だ!!」という意識でやりました。劇が終わったあと、ぼくはお客様に「声ははっきりと、感情をだせていて良かった」と言われ、良かったです。



STEPHENS NEWS

【陸上部活動報告】

- 第7回神奈川県小学生混成教室にて、男子A(100m、走り幅跳び、ジャベリックボール)と男子・女子C(800m、走り高跳び、ジャベリックボール)に小学生6名が参加しました。
 - 第57回大磯町民ロードレース大会に参加し、以下のように表彰されました。
 - 中学男子3年の部
 - 〈第1位〉K・O 〈第2位〉T・K 〈第3位〉S・O
 - 中学女子3年の部
 - 〈第1位〉S・S
 - 中学男子2年の部
 - 〈第2位〉M・I 〈第3位〉J・K
 - 中学女子2年の部
 - 〈第1位〉S・N 〈第2位〉N・I
 - 中学男子1年の部
 - 〈第1位〉M・U 〈第2位〉S・G 〈第3位〉S・A
- また、16名の児童・生徒が記録証を頂きました。



今月号は絵本の読み聞かせをして下さっているSAの方たちより、メッセージをいただきました。

* * *

一昨年五月より月に一度、小学校で20〜30分ほどの「絵本のおはなし会」を開いています。最初は、木曜日の放課後図書室開放の時間をお借りして、図書室の一角で始めました。聞きに来てくれる子はいるかな？反応はどうか？ドキドキの第一回だったのを覚えていません。でも、こちらの不安とは裏腹に23人の子どもたちが集まってくれ、おもしろければグラグラ笑い、神妙な場面ではじつと聞き入ってくれました。そうして、素話一つに絵本二冊、紙芝居一つが終わった時「えー、もう終わり！？」と言ってもらえた感動は忘れられません。

この活動は「本の読み聞かせを通じて、ステパノの子どもたちの心に『想像力』や『自分の思いを言葉にする力』、『他人の気持ちを理解する力』などを育てるお手伝いがしたい！」という一人の保護者の思いから始まりました。3人の保護者でスタートした会も、現在はメンバー5人。読み聞かせは初めてと

いうメンバーもいます。でも、全員が自分の子どもに本を読んであげる気持ちの延長で楽しく活動しています。

おはなし会では、メンバーそれぞれがその時に子どもたちと一緒に読みたい本を持ち寄ります。その中からジャンル・季節・時間配分等を考慮してプログラムを組みます。本選びで難しいのは、一年生から六年生までが楽しめる内容のものを選ぶこと。難しい内容は低学年には理解できないだろうし、単純すぎると高学年にはつまらないかも、とあれこれ悩みながら選びます。ですが、案外どんなお話でもみんな楽しそうに聞いてくれるんですよ！

また、日程が近づくこと、一、二、三年生にはおはなし会の案内として折り紙に日時や場所を書いて渡しています。ぴよんぴよんガエルや風船ウサギなど、子どもたちが喜ぶ顔を思い浮かべながら手を動かすのも楽しい時間です。

読み聞かせというのは「子どもと本をつなぐこと」「子どもと楽しい時間を共有すること」と聞いたことがあります。私たちの活動が子どもと本をつなげられているかどうかはわかりません。でも、絵本を通して、大人と子どもだけでなく子どもたち同士も、学年を越えて楽しい時間を共有していることは確かです。

メンバーは随時募集中です。SAのみならず、いつでも見学にいらしてください。

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

- 実用数学技能検定 (9級) 小4 R・H
- 日本漢字能力検定 (8級) 小4 R・H (5級) 小6 N・A
- 実用英語技能検定 (準2級) 中3 K・H
- 第86回 全国書画展覧会
 - 〈銅賞〉 中1 K・N 中2 S・A, Y・N
 - 〈銀賞〉 小4 K・K 小5 A・S
 - 小6 T・A, H・A
 - 中1 R・O 中2 A・S, N・S, A・S
 - 〈金賞〉 小5 H・F 小6 Y・F
 - 中2 N・I, S・N, J・F, A・M
 - 中3 S・U, S・S
- 第14回はだの丹沢水無川マラソン大会 5km 中学生男子 S・O

〈永年勤続者表彰〉

創立記念礼拝にて永年勤続者表彰が行われ、高桑恵先生(25年)、根田栄子先生(15年)、佐藤雅美先生(15年)が表彰されました。また、高桑恵先生は神奈川県私立小学校協会からも表彰されました。

〈採用〉庶務 小出初美

【編集後記】三学期は早速マラソン大会の練習が始まります。澄んだ空気の中を駆けぬける子どもたちを応援します。(K)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 ステパノ学園小学校・中学校

〒五五〇〇三 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp

二〇一九年一月十五日(火) 発行 第228号